

「地元の郷土文化を通して豊かな感性を養う」

～相看ペーロン部の24年の取り組み～

カテゴリー：④地域連携或いは⑤人材育成 学校概要：相生市看護専門学校

兵庫県相生市汐見台2番地2 3年課程 1学年定員数：40名 修業年限：3年

学校が位置する兵庫県相生市の地元には「ペーロン祭」という市の伝統的な祭りがある。この祭は今年で100周年を迎え、郷土文化として、地元住民にも愛されてきた相生市の伝統文化の一つである。ペーロン祭には毎年、多くの住民が祭の応援に駆けつけ、大変に賑わう祭りである。また、この祭は、32人で木造船の舟を漕ぎ、順位を競う祭である。

<経緯>1998年、当時の在校生らが、自主的に相生ペーロン祭への参加を決め、同時に「相看ペーロン部」が創設された。地元住民との交流はもとより、地元の祭りに参加をして盛り上げるという意味合いでも大いに歓迎された。そして、男女チーム共に、所属メンバーも増え卒業後も、ペーロン祭に在校生と共に、参加する者達が増えた。更に、創部8年目には、ペーロン部の卒業生だけで「相生市看護専門学校 海上運動会」と称して自主的に企画、運営する事となり、第1回大会が開催された。現在も毎年開催（コロナ禍で3年休止）している。ペーロン祭での両チームの競争成績としては、女子チームのSUPER DOLPHIN（スーパードルフィン）は女子の部を18連覇中、男子チームの磯風漕友会（いそかぜソウユカイ）は男子の部を13連覇中である。現在、カリキュラム改正に伴い、学校全体でペーロン祭に限らず、市の3大祭の何れかの祭に在校生が、運営側に携わり、地元住民の皆さんとの交流を深めることを予定している。最後にペーロンの起源とされる中国のドラゴンボートというスポーツ競技においても、両チームは日本を代表するチームに成長し、日本選手権を現在も連覇中である。

時期	取り組み	内容
4月～10月	体験乗船	地域の方、ペーロンチームの方と共同。対象：子ども、保護者
5月	ペーロン祭 サポート	学校自治会とも共同
	ペーロン競漕 出場	2022年結果：男子「磯風漕友会」が13連覇、女子「スーパードルフィン」が18連覇
6月	海上運動会（看護学校）	相看ペーロン部のOB・OGによる運営 近隣の保育園の園児・地域の方の応援にて開催
	海上運動会（小学校） サポート	地域のペーロンチームの方と共同。対象：市内の小中学生（3、6年生）80名
	黒豆の種付	学校自治会とも共同。地域の敷地に種付、定期的な草引き等
7月	海の掃除	相生湾沿岸。相生自治会、沿岸企業、漁協、一般ボランティアと共同
	長崎ペーロン大会	相生市と親善交流のある長崎のペーロン大会に参加
8月	親子ドラゴンボート体験教室	「ドラゴンボート」に親子で乗り込み、海上遊覧&競漕を体験する。参加者：親子50組程度
9月	黒豆の収穫	学校自治会とも共同。地域の敷地の収穫
10月	学校祭	OB・OGとも共同、地域の方々に向けて参画
その他	ワクチンサポート	学校自治会、OGとも共同。コロナ禍のなかワクチン接種サポート 対象：地域の方（全年齢）
	国内・海外ドラゴンボート大会出場	国内では両チーム日本選手権を連覇中 海外へは2010年広州アジア競技会に日本代表として出場
	学会発表（示説）	「看護専門学校と人間教育」（専任教員）ペーロンを通して築き上げてきたことの実践報告（H21）
	広報（取材等）	依頼に応じて（相生のまちを通して）
	もみじ祭り	自治体とも共同。イベントに参加
	ボランティア（地域）	学校自治体とも共同。様々な保育園・地域の施設



<現役学生の声>祭の運営に携わった学生達は「3年ぶりのペーロン祭を通して地域の人々の期待に応えられたと思う」「地域活性化、地域貢献に繋がったように思う」と述べている。実際に祭で漕いだ1年生達は「地域の方々に励まされ、すごく温かい気持ちになった」

「ペーロンに参加して、沢山の皆さんの支えがあって出来ていることを実感した」と述べている。また、地域の方々と一緒に観覧していた学生達は「決勝戦の時に、多くの地域の皆さんが実際に声を出して応援している姿を見て頑張ることの素晴らしさを改めて感じた」と述べていた。それぞれの祭への参加の形は違っていたが、地元の人々と共に人として大事なものが培えていた。

<地域に貢献しているメンバー（卒業生）の活躍>：<https://m.youtube.com/watch?v=L6MZXQ6fCnY>

<今後の展望>今後も、相看ペーロン部の活動が郷土文化ペーロンを通して、相生市看護専門学校と地域を連携し地域コミュニティのなかで更なる地元の人々の健康増進に働きかけ、活気あるまちづくりの一助になりたい。

1) テーマ： げんきカフェ

2) カテゴリー；④ （地域・多職種連携）

3) 学校概要 学校名 学校法人 平成医療学園 名古屋平成看護医療専門学校

所在地：愛知県名古屋市千種区今池 1-5-31

課程名：3年課程 1学年定員：40名 修業年限：3年間

内容【げんきカフェを開店しています】

- ① 目的：当校は、看護師・理学療法士・柔道整復師・はりきゅう師・スポーツトレーナーを養成する複合学科の専門学校である。教員はこれらの資格を保持し、より専門的な医療人・トレーナーの育成を目指している学生は、自分らしく生活する高齢者を近くで支える医療人・トレーナーになることも目的の一つとして就学している。高齢者を身近に感じる機会を増やし、高齢者と学生の相互関係により近隣住民をより元気で健康に寄与できるよう支援をすることを開店目的としている。地元の高齢者の実態を肌で触れることで地域に根差す学校として浸透していきたい。そして、教員と学生が一丸となり様々な資格の役割を考え、それぞれの資格に与えられた課題を見出せるようにしたい。
- ② 内容：体操・ゲーム・茶話会 など
- ③ 頻度：年間 4半期に1回 2時間程度
- ④ 周知方法：ポスター・いきいき支援センター・回覧板・区長
- ⑤ 学生の役割：ボランティアとして体操・ゲームを主体的に企画・運営
お茶出し・コミュニケーション等 など
- ⑥ 地域・多職種との連携：
 - ・学校を会場としていることで、地域住民が学校の存在を知るチャンスとなっている
 - ・学生と高齢者が一体なり両方に「笑顔・げんき」がある
 - ・本校の他科の学生も参加している
 - ・いきいき支援センターとのパイプができ、ボランティア活動の幅が広がった
 - ・認知症サポーター養成講座を受けてオレンジリングをもって活躍している
 - ・学生が高齢者とのかかわり方を深めるチャンスとなっている



参加した学生の感想

- ・高齢者の方とうまくコミュニケーションがとれるか不安もあったが、自然体で接することで、相手も話してくださり、その人を知ることができた。自分から一步を踏み出すことができてよかった。
- ・楽しんで頂けて、やりがいを感じたため、地域の方が学校にたくさん遊びに来てくださいね。



これからも、地域との繋がりを大切に、来場された方と学生が会話を楽しみ、来てよかったと感じて頂ける場になるように活動していきたい。

テーマ **気づき合い!リフレクションで技能** ~対話型教員研修活動~

カテゴリー ⑤その他(人材育成)

編集: 教員研修委員

〔教育理念〕

人間の尊厳と人間愛の精神が学生一人ひとりに根つき、変化し続ける社会の中で看護を実践できるための基礎的能力を養い、人々の健康と幸福な生活の向上を目指し、保健・医療・福祉の中で社会に貢献できる専門職業人の育成を行う

〔学校概要〕

学 校 名: 三草会札幌看護専門学校
所 在 地: 北海道札幌市東区北 36 条
東 1 丁目 4-12
課 程 名: 3 年課程
1 学年定員: 40 名
就 業 年 限: 3 年



研修内容

本校は、令和4年度で開校6年目を迎えました。開校時の在籍教員のうち教員養成講習会を終了したばかりの新人看護教員が4名おり、教員経験0年~5年未満が約半数を占める組織でした。そのため、開校時より看護教育実践能力の向上を目的とした自己研鑽・相互研鑽の機会を得られるように教員研修委員を学校組織に位置づけ、年間計画を立案して教員間の「対話」を重視しながらリフレクションの機会を増やし、プリセプター制度を導入しサポート体制を整えた中で教育活動を行ってきました。

開校時より6年間実施してきた教員研修の内容として、「模擬授業」「授業研究」「学会報告会」「事例検討会」「授業評価」をご報告いたします。

1 <模擬授業> 初回授業 1 か月前

新任教員を対象に担当する科目の授業案を作成し実践と客観的な評価をもとに具体的な改善点を明確にしています。先輩教員を学生役と参観者に置き、授業評価シートを活用し相互評価を行い、学生役の教員も含めた全員で事後研究を実施しています。

2 <授業研究> 初回又は模擬授業で計画した授業時

授業リフレクションにより、実施した授業の振り返りを意識的に行い、授業改善の方策を明確にしなが実践能力の向上を目的にしています。

実際に参観者が「授業の見学」を行い、授業者による「自己リフレクション」、授業者と参加者による「対話」で構成し、継続的に学び合える環境を整えています。

対話では、参観者は自分が学んだ点や授業者が気づいていない新たな視点の提供を心がけています!

3 <授業評価>

学生の主体的・能動的な学びを引き出す授業方法の工夫に取り組むため、担当する科目の終講時に学生へ無記名のアンケートを実施します。

教員自身も教員用のアンケートを記載し、学生分と合わせて集計して校長先生のアドバイスを受け、自己分析・課題を明確化し、授業の改善を図っています。

4 <学会報告会> 年1~2回開催

全国の領域別学会や研修で得た学びを報告し合い、今後の看護教育実践活動への自己の学びの成果と課題を見出す機会にしています。



5 <事例検討会> 年1回開催

事例に対して建設的な支援を行い、問題解決に向けて教員間で意見交換を行うことで、抱え込みを回避し、相互の協働関係の構築を図ります。そして、学生の豊かな生活・学習のための継続的支援につなげています。

6 【開校当時新入教員であった6年目教員より】

本校の自慢は、新人・先輩教員というキャリアの垣根を超え、お互いの気づき・アイデアを「対話」重視で共有していることです。6期生の学生を迎えた今、学びの財産を学生に、そして看護師養成校としての役割を果たし続けていきたいです。